

解答

一

問一

エ

津波によって町が呑み込まれ、荒れ野になってしまったこと。

問二

イ

瓦礫処理という後ろ向きなことより、新築工事という前向きな作業のほうに目を向けること。

問三

ウ

ⅰ 飲めるような

ⅱ ラベルに記された日付の字

問四

イ

死んでしまった雁がくわえていた

問五

ウ

津波で亡くなった人たちを供養したいという気持ち。

問六

遺品

津波の被害にあった祖母の家を訪ねた時、そこにあった瓦礫は処理すべきゴミではなく祖母の遺品だと感じた自分は、鈴木さんと同じ思いを持っていると確信したから。

問七

a 不意

b 視界

c 収納

d 一画

二

問一

a 要素

b 想像

c 成果

d 得意

問二

ウ

エ

感覚をフル

資料や記録ではなく、自分の記憶と想像力を使って描くので、もっとも印象に残ったところが際立ち、その人らしいものになるということ。

問三

ウ

完全主義者ぶり

問四

A

「高畑さん」はリアリズムに徹するが、「宮さん」はオリジナルなものを追求する点。

問五

B

こだわりの持ち、納得できるまで自分らしい手法で作品に向き合おうとする点。

解説

一

問十二

誠は祖母の家を訪ねたとき、瓦礫には「さまざまな色」があり、祖母の遺品なのだと感じたことを思い出し、鈴木さんの「瓦礫ってのは、・・・ぜんぶ遺品なんだよな」という言葉に共感し、その思いを強くしたのだと読み取ることができます。

二

問八

本文の前半は「宮さん」の、後半は「高畑さん」の、作品を描くときの姿勢が説明されています。記憶を重視し、オリジナルを追求する「宮さん」と、リアリズムにこだわる高畑さんの違い、それぞれの手法で納得するまでこだわって作品に向きあおうとする共通点を、整理してまとめましょう。